

Fri 鋼管・建材・線材 二次製品 Thu 鋼板・二次製品 需要産業 Wed 海外情報 Tue 電炉・スクラップ・技術・環境・エンジ Mon 特殊鋼・ステンレス 鋳鍛鋼

# 電炉・スクラップ・技術・環境・エンジ

## ワコー産業

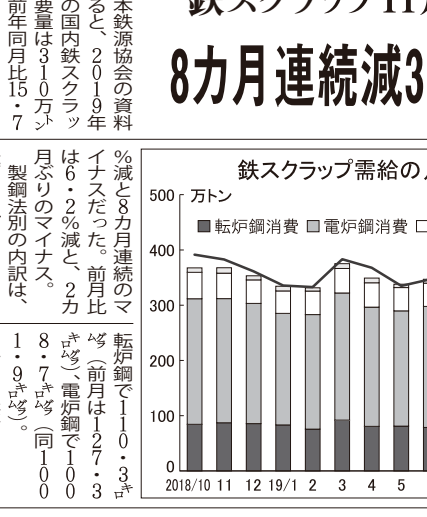
### 近畿工業製「K-CUBE」導入

### 木くずリサイクル強化

産業廃棄物処理などを行うワコー産業(本社和歌山県白旗郡、山本雅弘社長)は、このほど、振動ふるい機やベルトコンベアなどを一体化し、トラックや重機でけん引することで移動可能な近畿工業製「K-CUBE」(ケイ・キューブ)を導入した。木くずリサイクルの強化が狙い。同社ではこれまで破砕していた木くずの販売先が製紙会社の燃料用などに限られていたが「K-CUBE」の導入に伴う選別工程の新設などにより、バイオマス発電所向けなど販路が大幅に拡大。月間1000トンの処理・販売を目指す。



ワコー産業外観



近畿工業製「K-CUBE」

けたことにより、移動処理能力の強化による先路面が懸念も水平を保つことができるシステムを採用。選別向け燃料のほか、グランドの要望もあり、ワコーは、船舶のさび取りなどに使われたサンドブラストの廃砂のリサイクルも開始した。サンドブラストで使用された廃砂は産業廃棄物として埋め立て処理されるケースが多いが、取引先となる造船所からの要望もあり、ワコー

産業がこれまで手掛けた再生砕石製造のノウハウに加え、近畿工業の独自技術・対応力を組み合わせ、クルンや含硫機、風力選別機などを活用した再資源化ラインを建設。廃砂と廃砂に含まれる塗料を可能な限り取り除き、国内で初めて塗料が除去された、同社では全国営業の展開も視野に入れているという。

## 月1000トン処理販売目指す

近畿工業製の「K-CUBE」は、破砕機として収容するサイクル設備、省スペース化に加えて、工場設置期間の短縮化など、木くずを選別するもので、ユニットプランに上下に動く足を設置し、ワコー産業が導入した「K-CUBE」は、既設の移動式破砕機の後工程として破砕された木くずを選別するもので、ユニットプランに上下に動く足を設置

## 鉄鋼蓄積量13.9億トン

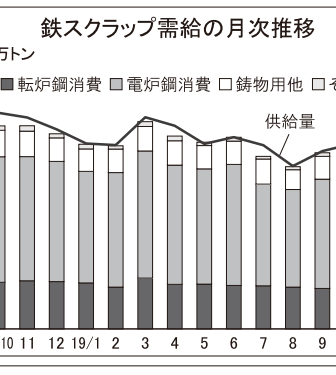
### 18年度末推定 9年連続で増加

日本鉄源協会が発行した「クォーターレポート」によると、18年度末の鉄鋼蓄積量は13億9000万トンと推定され、9年連続で増加した。18年度の鉄鋼蓄積量は前年度比2.5%増の13億9000万トンとなった。鉄鋼蓄積量の増加要因は、鉄鋼輸入1億2300万トンの前年度比増の1億4000万トン増と推定され、鉄鋼製品の輸入が前年度より77万トン増の1億4000万トンとなったことによる。鉄鋼輸出は前年度比減の1億379万トンとなった。18年度の鉄鋼蓄積量は前年度比2.5%増の13億9000万トンとなった。鉄鋼蓄積量の増加要因は、鉄鋼輸入1億2300万トンの前年度比増の1億4000万トン増と推定され、鉄鋼製品の輸入が前年度より77万トン増の1億4000万トンとなったことによる。鉄鋼輸出は前年度比減の1億379万トンとなった。

鉄鋼蓄積量の増加要因は、鉄鋼輸入1億2300万トンの前年度比増の1億4000万トン増と推定され、鉄鋼製品の輸入が前年度より77万トン増の1億4000万トンとなったことによる。鉄鋼輸出は前年度比減の1億379万トンとなった。

## 鉄スクラップ11月内需 8カ月連続減310万トン

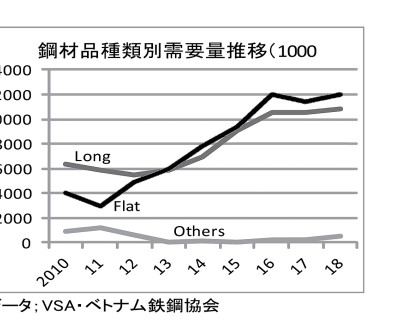
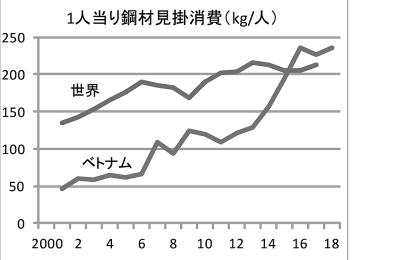
日本鉄源協会の資料によると、2019年11月の国内鉄スクラップ需要量は910万トンと推定され、前年同月比15.7%減と8カ月連続の減少が続いている。一方海外は、まず2018年の中国では鉄スクラップ需要が900万トンと推定され、発生量は99万トンと推定され、前年同月比1.1%減と9カ月連続の減少が続いている。前月比は2.4%減となった。また、鉄鋼用などでは42万6000トンと推定され、前年同月比13.7%減と4カ月連続の減少が続いている。また、同国の鉄スクラップの消費量は404万トン、輸出量は1330万トン、輸入量は505万トンだった。



## ベトナムの鉄鋼・鉄源需給の現状②

鉄リサイクルング・リサーチ代表取締役 林誠一

2. 鉄鋼需要  
(1) 経済及びマクロ鉄鋼需要  
実質経済成長率は16年6.2%、17年6.8%、18年7.1%と堅調に推移している。19年に入って1-2月の鉱工業生産指数は前年同期比+9.2%、うち加工製造業は+11.5%を示しており、19年も7%に近い高い成長率が達成されそうだ。自動車生産台数は17年19.6万台、18年20万台、19年27.3万台と着実に増加している。国内自動車販売台数も17年27.3万台、18年27.6万台と着実に増加している。実際にはオートバイが3車線満杯に近い状態で走行しており、乗用車保有には未だ時間がかかりそうだ。また残念ながら鉄鋼需要の6割~7割を占めるとされる建設部門の活動水準(使途構造別建築着工床面積や土木部門の工事種別着工金額など)を表すデータは未だ捕捉されていない。

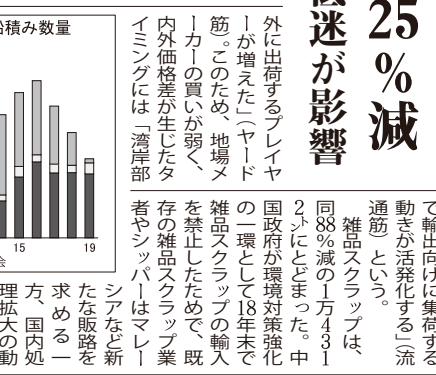


「鋼材生産-鋼材輸出+鋼材輸入」よりマクロ的に把握した鋼材見掛消費量は、18年2,230万t(データ:VSA)となり、前年を3%上回った。人口1人当り鋼材見掛消費量は16年に世界平均を上回り、18年は235.5kg/人となったと推察される。

(2) 鋼材品種類別需要  
18年2,230万tの鋼材品種類別需要量は条鋼類1,080万t(全体の46.5%)、鋼板類1,200万t(同52.5%)、その他鋼管等である。13年以降、鋼板需要が条鋼を上回って推移している。

## 中国向け低迷が影響 19年船積み25%減

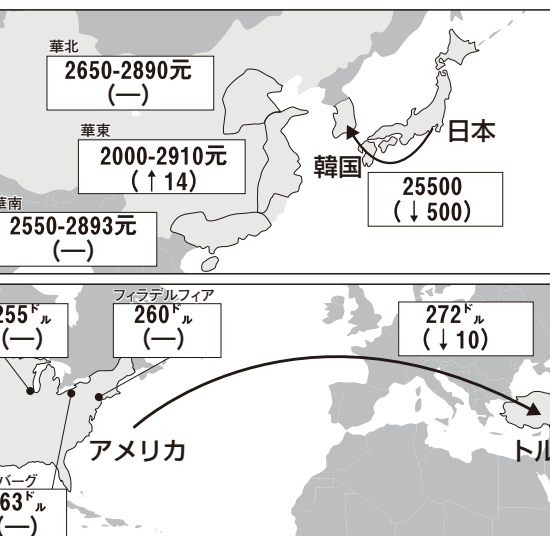
大阪湾岸鉄スクラップ船積み数量は、19年1-11月の累計が前年同月比25%減の2億9493トンと推定された。これは、中国向け船積み数量が前年同月比4%減の2億7116トンとなったことによる。内訳はヘビースクラップが前年同月比13.4%増の2億7116トン、軽スクラップが前年同月比4%減の2億9493トンとなった。



外に出荷するプレイヤが増えた(ヤード)が、このため、相場も一時的に弱く、内外価格差が生じた。インデックスは「湾岸部」が前年同月比2.3%増の2億7116トン、内訳はヘビースクラップが前年同月比13.4%増の2億7116トン、軽スクラップが前年同月比4%減の2億9493トンとなった。

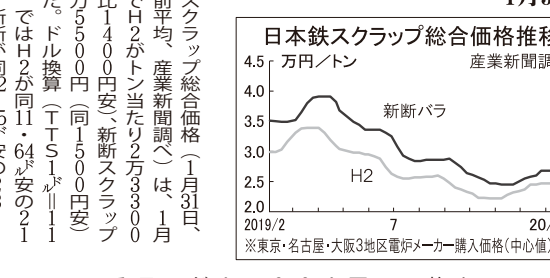
## 鉄スクラップ国際相場動向

※米国からトルコ向けはCFR/HMS、日本から韓国向けはFOB/H2(いずれもトン当たり)、中国はH2相当)元/トン、カッコ内は前週比



海外市況が軟化  
概要としてトルコ向けの新規鉄スクラップ輸出価格が下落したことなどから海外市況は軟化している。直近のトルコ向け輸出商談の指標価格は米国からCFR(HMS No.1) 272ドル(↓10)、米国からFOB(H2) 263ドル(↓)、欧州からFOB(H2) 255ドル(↓)と、前週比10%安。

## 日本鉄スクラップ総合価格



日本鉄スクラップ総合価格(1月31日、3地区平均)は、前週比1.4%増の2万3300円(先週比1.4%増)となった。新断スクラップが2万5500円(前週比1.4%増)で推移した。ドル換算(TS)は11.70ドル(前週比1.4%増)となった。

## H2・新断とも下落

東鉄・宇都宮は29日、31日入荷分が前週比1.4%増の2万3300円(先週比1.4%増)で推移した。ドル換算(TS)は11.70ドル(前週比1.4%増)となった。

主要電炉鉄スクラップ購入価格 (20年2月3日調べ)	H2ベース	決済条件
東京製鉄・宇都宮	23,500	手形
東京製鉄・田原	23,500	手形
東京製鉄・岡山	22,000	手形
東京製鉄・高松	21,000	手形
東京製鉄・九州	23,500	手形
大同特殊鋼	19,000	手形
王子製鉄	21,000	契約納入
トピー工業・豊橋	20,500	現金ベース